

## アジア太平洋：APRIA (Asia-Pacific Risk and Insurance Association) の研究動向

明治大学 中林真理子

### 1. はじめに

本報告は、アジアを中心にアジア太平洋地域での保険論分野についての研究動向を概説することを目的としている。具体的には同地域での代表的な国際学会であるアジア太平洋リスク保険学会（Asia-Pacific Risk and Insurance Association、以下 APRIA と表記）の概要と研究動向について紹介する。

### 2. APRIA の概要

APRIA は産官学の連携をベースにリスク・保険に関する理論・実務を国際的に研究する学会として 1997 年に創設された。当時のアジアの若手研究者達からの「アジア地区でのリスクと保険に関する国際学会設立の必要性」への訴えに応じたハロルド・スキッパー（Harold Skipper Jr.）ジョージア州立大学教授（当時）がペンシルバニア大学ウオートン校時代からの研究者仲間へ学会設立を呼びかけたことが契機だった。

年次大会(Annual Conference)は毎年 7 月下旬から 8 月上旬に 4 日間わたり開催される。開催国は毎年異なり、大学が主催校となる。日本では 2006 年と 2011 年に明治大学で開催された。中国、韓国、シンガポールなど大会参加者の多い国々では過去 2~3 大会を開催している。第 22 回大会にあたる本年年次大会は 7 月 29 日から 8 月 1 日までシンガポールの南洋理工大学で IRFRC-APRIA Joint Conference として、同大学 Insurance Risk and Finance Research Centre (IRFRC) が毎年開催する発表大会 (Insurance Risk and Finance Research Conference) との合同大会として開催された。例年アジア太平洋地域を中心に、ヨーロッパ等からも広く参加があるが、本年は 20 か国から 170 名が参加し、このうち日本からは 27 名だった。

また、2006 年には学会ジャーナル Asia-Pacific Journal of Risk and Insurance (以下 APJRI と表記)を創刊し、以降年 2 号のペースで出版されている。現在は e ジャーナルのみでの刊行となっている。

### 3. APRIA 年次大会

APRIA 年次大会のプログラムは、プログラム担当副会長が開催国の組織委員会と連絡を取りながら決定する。報告は、Plenary Sessions と Concurrent Sessions に大別される。

#### (1)Plenary Sessions

招待研究者等による報告が行われ、大会期間中に 4 回程度のセッションが組まれる。開会式直後の基調講演 (Keynote Speech) と Plenary Session 1 は、通常開催国の保険監督官を中心とした人選となる。その後は、開催地や主催校や時機にあったテーマを中心に、

産学からの著名なスピーカーによりセッションが構成される。近年はより特徴的なセッションも組まれている。例えば 2016 年の年次大会では学会全体の研究水準向上のため、ディック・バトラー (Dick Butler) ブリガムヤング大学教授による実証研究のためのチュートリアルセッション (Methodologies in Risk Management and Insurance Research) が開催された。本年大会では、アンドレアス・リヒター (Andreas Richter) ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン リスク保険センター長が “Behavioral Insurance” と題して、保険需要についての最先端の研究動向を解説するなど新たな試みがあった。

## (2) Concurrent Sessions

Proposal を提出し審査を通過した研究者による報告が行われる。大会前年の秋以降に APRIA のウェブページに出される Call for Papers に従い、2 月中旬までに Proposal (または完成論文) を提出し、4 月 1 週目までに採択結果が通知される。採択後は、6 月中旬までに完成論文を提出することで大会での報告が可能となる。過去 3 年の【応募数、採択数、実際の報告数】は、2018 年【170/140/109】、2017 年【148/133/88】、2016 年【115/105/75】で、採択率は比較的高く、国際大会での活躍を目指す若手研究者にとって格好の学会と言える。実際、保険学部等を有し研究が盛んな大学 (サンクトガレン大学 (スイス)、テンプル大学 (米国)、北京大学 (中国) 等) では多くの大学院生が年次大会に参加し、指導教授と共著で報告をする姿がよく見られる。

Concurrent Session は大会中 6 回程度設置され、各回 6~8 セッションが同時並行で行われる。各セッションは同様のテーマの 3~4 報告からなり、1 報告はプレゼンテーション 20 分、討論と質疑応答で 10 分の合計 30 分程度で構成される。2016 年から討論者制度が導入されている。本年大会では、2 セッション以上組まれたテーマは、Risk Management、Statistics、Insurance Economics、Insurance Market、Insurer Operation、Regulation、Valuations、Retirement、Longevity の 9 つだった。また、アクチュアリー会 (Society of Actuaries) が大会を後援していたことから、アクチュアリーによる報告の割合が例年より高かった。研究手法は、現在ではミクロ経済学を分析手法に用いた理論研究と実証研究が圧倒的多数を占め、ARIA と共通点が多い。同時に、参加者の出身国のデータを用いた分析や制度紹介といった報告も少数ながら存在する。

## 4. APRIA での研究動向と今後の方向性

APRIA では学会としての研究のクオリティを高めるために、年次大会での報告とは対照的に、APJRI での論文採択率は低く抑えられている (2017 年の採択率は 24%)。また、本年年次大会と連動した新たな試みとして、招待エディターによる “Emerging Risks and New Solutions in Risk Management” と題した特別号を発行し、Concurrent Session での特に優れた報告を掲載することを決めた。

このほか、APRIA は設立から 20 年以上経過し、ここで知り合った研究者同士で同地域内に新たなワークショップ等が立ち上げるなど、さらなる発展の段階に入っている。